

おわりに

八木 浩平

本研究では、国産りんごのカットフルーツ仕向け拡大へ向けた論点について、原料供給の側面と、カットリんご製造事業の拡大要件に関する側面の大きく2側面から整理した。

一方でこうしたトピックを巡って、幾つかの研究課題も残された。第一に本研究では、りんごのカットフルーツ専用園栽培に関する利点と課題について、技術的な知見を踏まえた検証がなされていない。本稿第4章でも指摘した通り、農家の経営によるカットフルーツ専用園栽培は耕作放棄地対策や労働力分散といった利点があるが、価格の折り合いが付きにくいといった課題も有している。圃場での実証を行うことで、カットフルーツ専用園の栽培体系や費用構造を明らかにし、相場に関わらず安定した取引を実現できる取引契約の実現を後押しすることが求められよう。なお、価格に関する合意の必要ない生産部門と加工部門の一貫経営はメーカーの手で実現しており、そうした先進事例の栽培方法等は参考になるものと考えられる。

第二に、カット用規格の流通を拡大するに当たって、専用園栽培以外の切り口の検討が十分なされていない。りんごは1つの園地で多様な品質の果実が収穫されるため、わざわざ収穫した果実の全量取引を行うよりも、必要な規格を大量に調達できる集出荷業者を経由した取引を行う方が効率的である可能性もある。農協においてカット用りんごがどのように選果され、メーカーにどのように供給されるのか、集出荷業者を経由した流通チャネルの現状を把握し問題点がないのか検証することも、今後の検討課題の1つとなる。

なお最後になったが、本稿の執筆に当たっては、多くの企業、団体、研究・行政機関の方々にご協力いただいた。こうした調査にご協力いただいた方々、特に執筆や調査に当たって多くの助言を下さった東北農業研究センターの長谷川啓哉氏、中央農業総合研究センターの河野恵伸氏に厚く御礼申し上げたい。